

H24年度の関係機関の取組及び小笠原諸島の近況

① 遺産登録後の変化

入島者、入林者、属島利用者が増えました。

② 「管理計画」に基づく保全施策の進捗

ノネコ対策が進み、カラスバトが増えました。
ヤギ、ネズミ対策が進み、一部ではあるものの、
マイマイ、植物に回復の傾向が見られました。

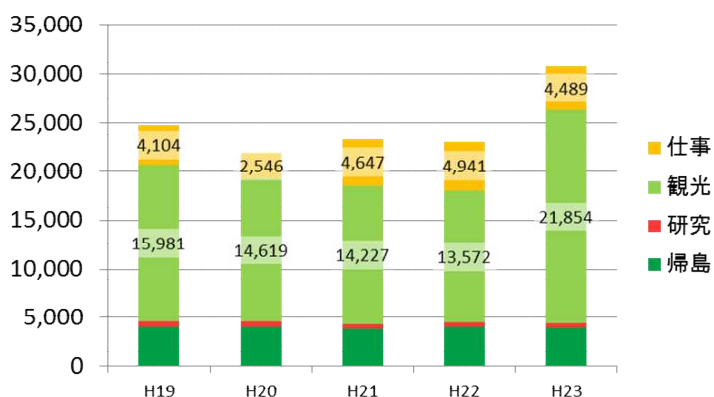


- ・ 新たな外来生物の侵入のリスクも増えています。
- ・ 島内の変化に伴う課題に取り組む必要があります。

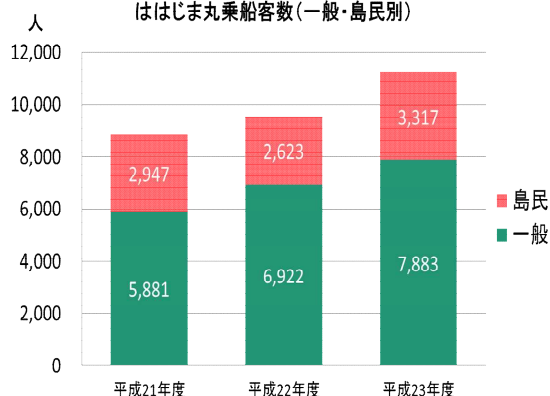
1. 小笠原諸島の状況① （来島者数）

世界遺産登録された平成23年度には、おがさわら丸での来島者数は、過去最高の21,854人（観光目的）を記録しました。研究者・帰島者・仕事での来島者はほぼ横ばいでした。ははしま丸の乗船客数も、一般の利用者が増加しています。

おがさわら丸乗船客数

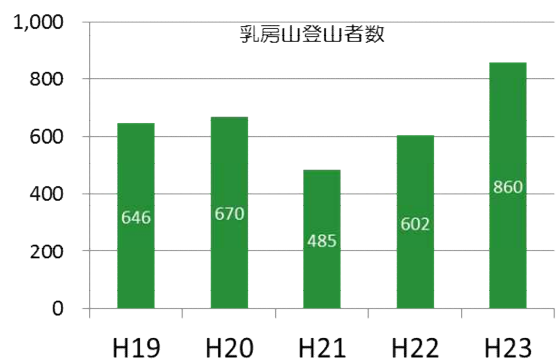
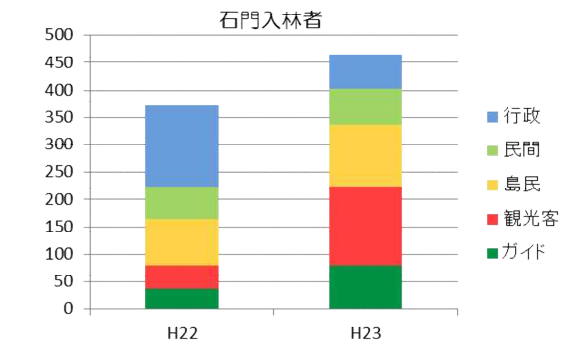
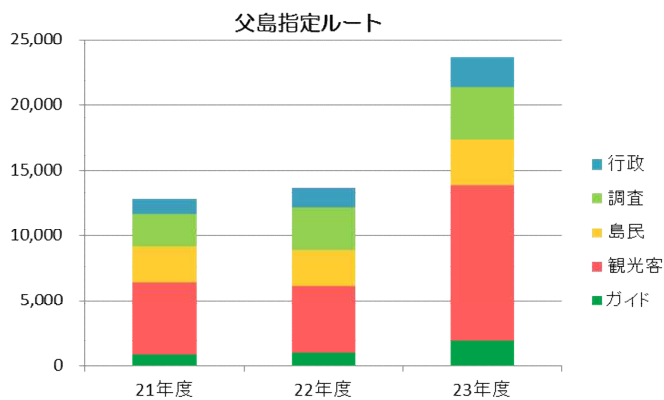


ははしま丸乗船客数（一般・島民別）



1. 小笠原諸島の社会的状況②（入林者数）

遺産登録後、父島の指定ルートでは、入林者の増加が見られます。また、母島の石門・乳房山の登山者数も増えています。



観光客、事業者、調査者も増加。

(出典)
 父島: 林野庁
 母島石門: 母島観光協会
 母島乳房山: 登頂証明書発行数

1. 小笠原諸島の状況③（村民意見交換会の実施）

第1回 村民意見交換会

村民生活
(観光・産業)

遺産価値の
保全

各グループ
の意見集約

第2回 村民意見交換会

前回の意見
集約の報告
と新たな意
見交換会

島民の
意見集

基礎
資料集

H25以降、課題の
整理・検討

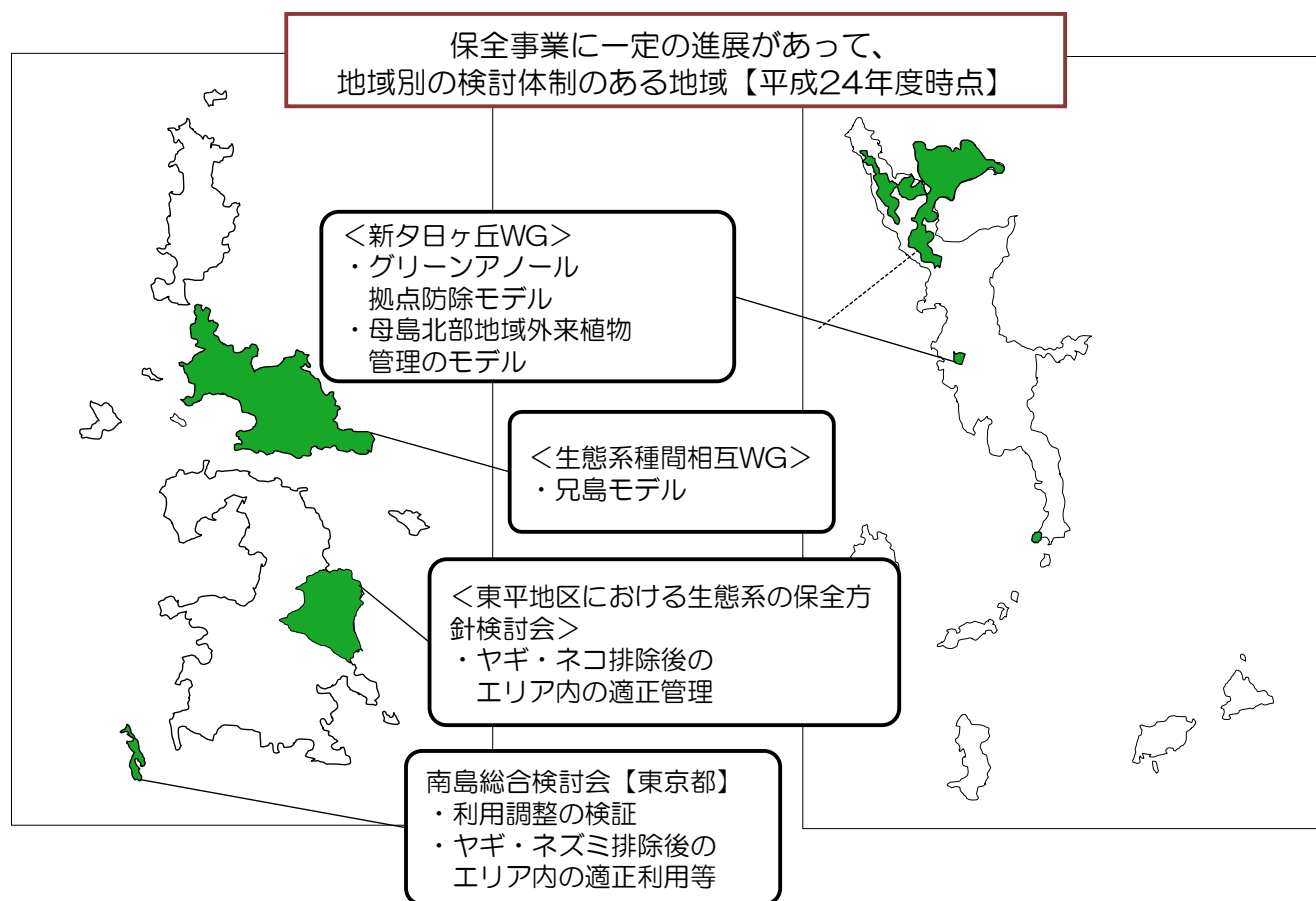
地域連絡会議に報告

科学委員会に報告



(*) 議事3で詳細を報告します。

2. 小笠原の生態系の保全施策の進展



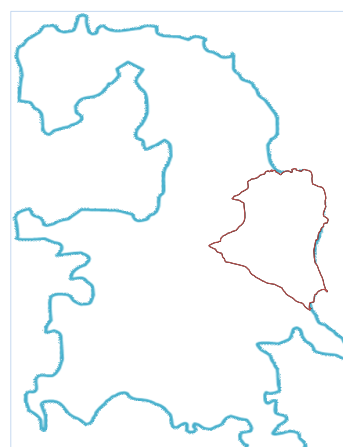
2-① 父島ノヤギ・ノネコ排除（環境省、東京都、小笠原村）

ヤギ・ネコ柵の内部でのヤギ、ネコの排除

- ◆ 父島東平地域の山域でのネコ・ヤギの捕獲地域が限定化されました。
- ◆ フェンス内のヤギについては、全頭駆除したと考えられます。
- ◆ フェンス内のネコについては、現在、1頭確認されています。



年度	実施箇所
H21年度	鳥山地域（ネコ柵）
	都道沿い（ネコ柵）
H22年度	東海岸（ヤギ柵）
	ノネコ防除柵（ショートカット）
H23年度	初寝ルート（ヤギ柵）
	初寝ルート（ネコ柵）（完成H24.6）



2-② 父島ノヤギ排除（環境省、東京都、小笠原村）

（１） 銃器による排除（H24）

【作業区域】

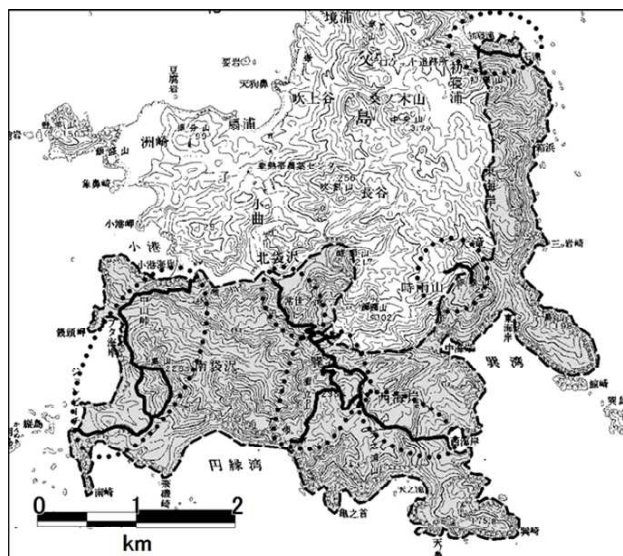
- ・ 右図のとおり

【実施期間・時間】

- ・ 平成24年5月～平成25年2月
- ・ おがさわら丸の入港日から出港日まで
- ・ 観光繁忙期は除く

【遊歩道等の通行止め】

利用者の安全性確保のため、
一部ルートで通行止めを実施

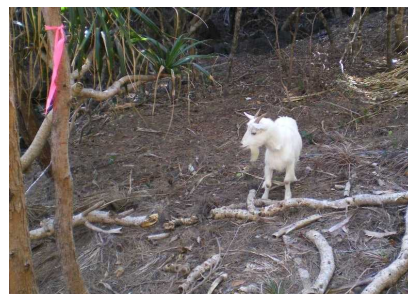


（２） わな等による捕獲

- ・ 首くくり罠
- ・ 奥村地区の誘引捕獲柵の試行

（３） 捕獲結果

- ・ 捕獲頭数（494頭）
- ・ 東平フェンス内においては、
全頭排除したと考えられる。



2-② 父島ノヤギ排除（環境省、東京都、小笠原村）

➤ 父島ノヤギ排除状況

小笠原諸島ノヤギ捕獲状況

（単位：頭）

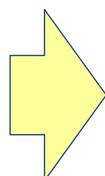
年度		H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	合計
智島列島	煤島	136	137	144														281
	嫁島				79	2												81
	智島				656	265	17	2										940
父島列島	西島						39	2										41
	兄島								78	161	87	61						387
	弟島												197	98	7			302
	父島														385	689	494	1,568
計		136	137	144	735	267	56	4	78	161	87	61	197	98	392	689	494	3,600

※東京都及び村のわなは2013年2月6日現在

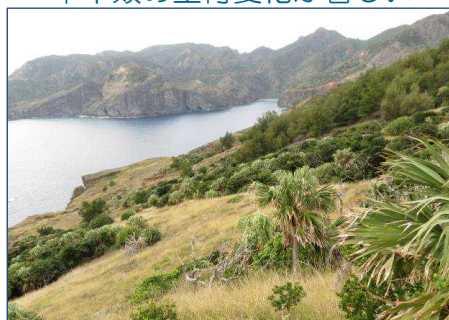
➤ 植生への影響

- ・ 駆除開始から1年程度ですが、一部地域ではノヤギの低密度化により
植生変化が見られ、在来植生回復のほか外来植物の侵入拡散が懸念されます。

父島鳥山周辺



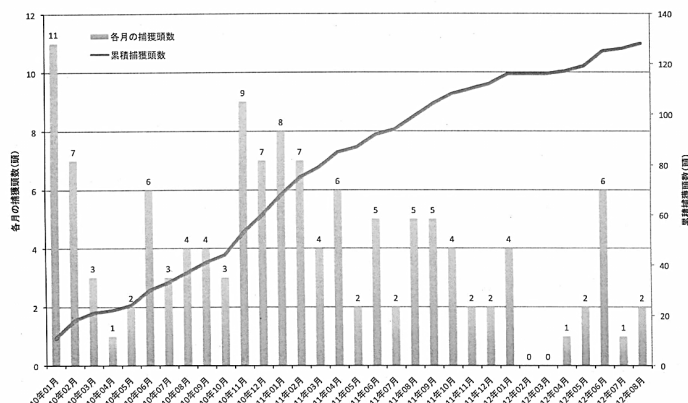
- ・ 草本類の生育変化が著しい



2-③ ネコ対策（環境省、小笠原村）

山域のネコへの対応の状況

- ◆ 父島の山域でのノネコの捕獲が進み、山域のネコの確認頭数が減っています。
- ◆ 集落近くでのネコの対応も進んでいます。



捕獲して、島外へ搬出
侵入防止柵による防除
適正飼養

獣医師会、小笠原海運、地域の協力なしには進まない



2-③ ネコ対策（環境省、小笠原村）

適正飼養推進事業（小笠原村）

◆小笠原動物派遣診療について

「東京都獣医師会の協力」

山域・・・捕獲したノネコの受入

集落・・・「派遣診療」による適正飼養の推進

「派遣診療の目的」

東京都獣医師会の獣医による診療を通じ、飼い猫がノネコの供給源とならないよう、適正飼養の推進を図る

平成24年度の概要

- 実施機関 11月29日・30日 母島 12月2日～5日 父島
- 派遣獣医師 7名
- 対象動物 主にネコ・イヌ
- 診療項目 マイクロチップ挿入、避妊・健康相談、ワクチン接種等
- 飼い主との懇談会 「小笠原でペットと楽しく暮らすためには？」
 - ・家畜と伴侶動物他 （中川動物病院：中川獣医師）
 - ・ペットの悩み相談
- その他
 - ・小学1年生ふれあい教室・中学生全生徒向け講演の実施
 - ・小笠原ネコに関する連絡会議との意見交換会の実施

2-③ ネコ対策（環境省、小笠原村）

◆これまでの実績（ネコのみ）

頭

実施年度	診療頭数	マイクロチップ	避妊手術	備考
平成20年度	26	17	5	1航海での実施
平成21年度	60	25	6	
平成22年度	75	24	5	
平成23年度	65	10	2	
平成24年度	64	6	0	
合 計	—	82	18	

◆島内の状況（H25. 1月末現在）

頭

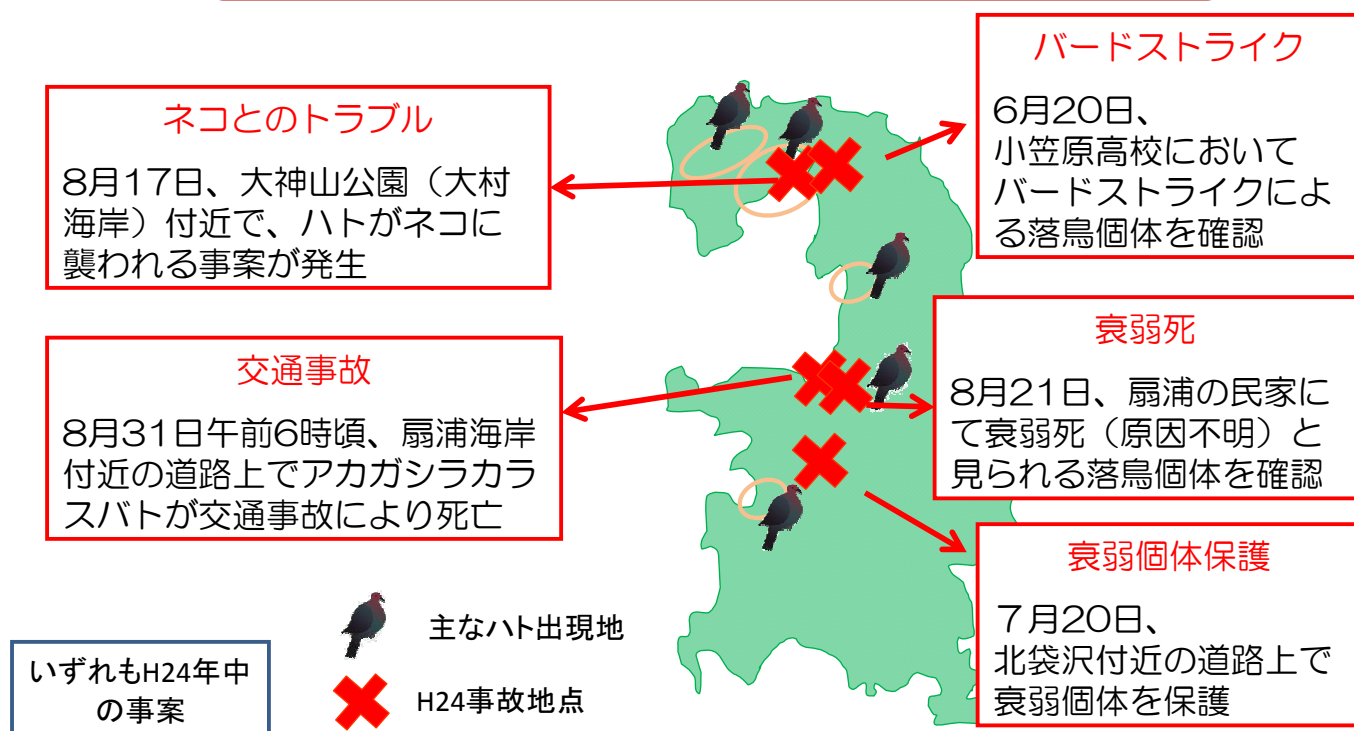
父・母島	飼い猫数	マイクロチップ済	避妊手術済
父島	89	79(88%)	89(100%)
母島	32	13(41%)	32(100%)
計	121	92(76%)	121(100%)

今後の集落の飼い猫の課題については、参考資料「小笠原ネコに関する連絡会議と東京都獣医師会小笠原動物診療派遣団 意見交換会の議事レポート参照

小笠原ネコに関する連絡会議（小笠原村）

2-③ ネコ対策（環境省、小笠原村）

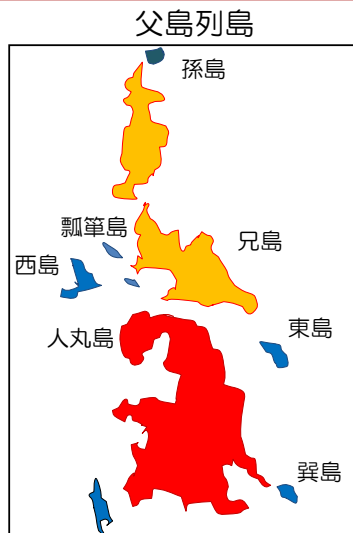
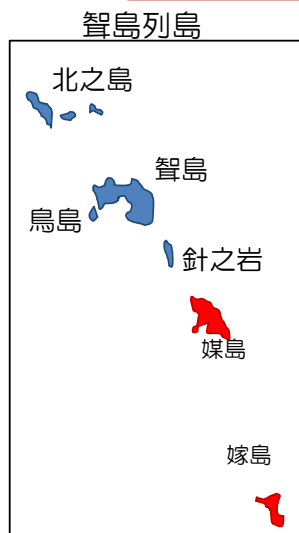
アカガシラカラスバトの生息状況が回復傾向。
島内の人里近くで見られるようになった一方で、
ネコとのトラブルや交通事故等が発生した



2-④ 属島等におけるクマネズミ対策（環境省）

ネズミ類への対応の状況

- ◆ 父島、聳島属島の一部で実施した。
- ◆ 大きな島での根絶技術は未確立。
（兄島、弟島では、根絶に失敗している）
- ◆ 母島属島では未実施。



- 現在ネズミの生息が確認されていない島
- 現在ネズミが生息している島
- 駆除を実施したが、ネズミが残存している島

◆ 毒餌の空中散布

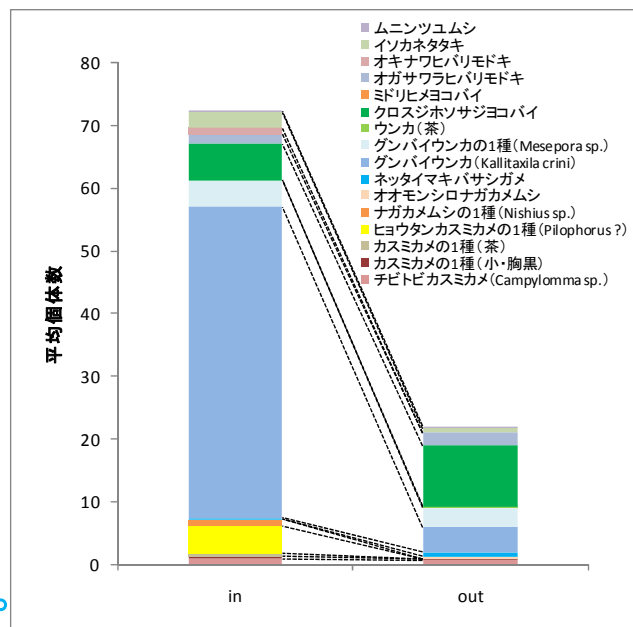
2-⑤ 母島におけるグリーンアノール対策（環境省）

母島のグリーンアノールへの対応の状況

- ◆ 母島新夕日丘でのアノールフェンス内は、ほぼ低密度化を達成した
（拠点排除技術は、一定の成果）。

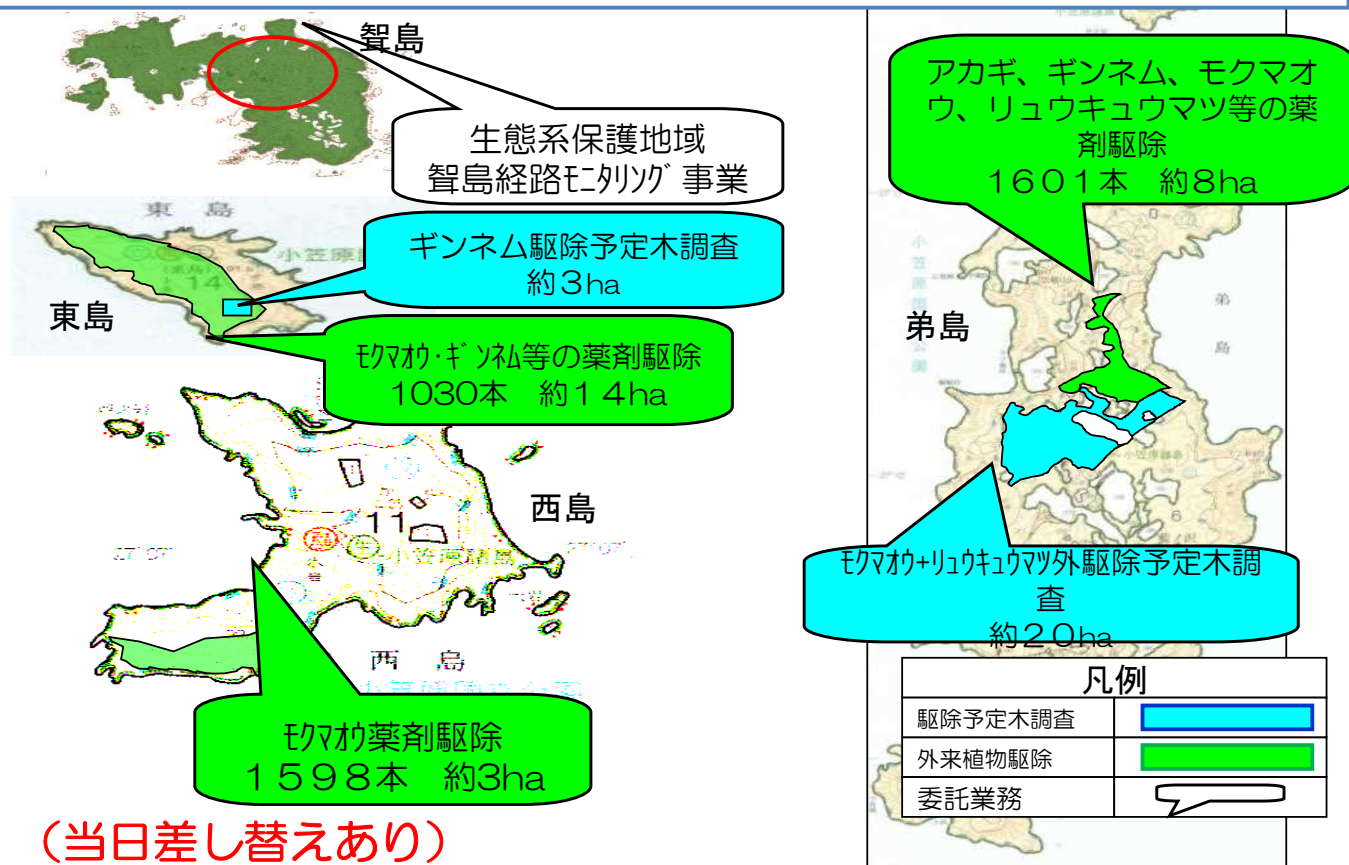


柵の中の昆虫類が回復傾向にある。



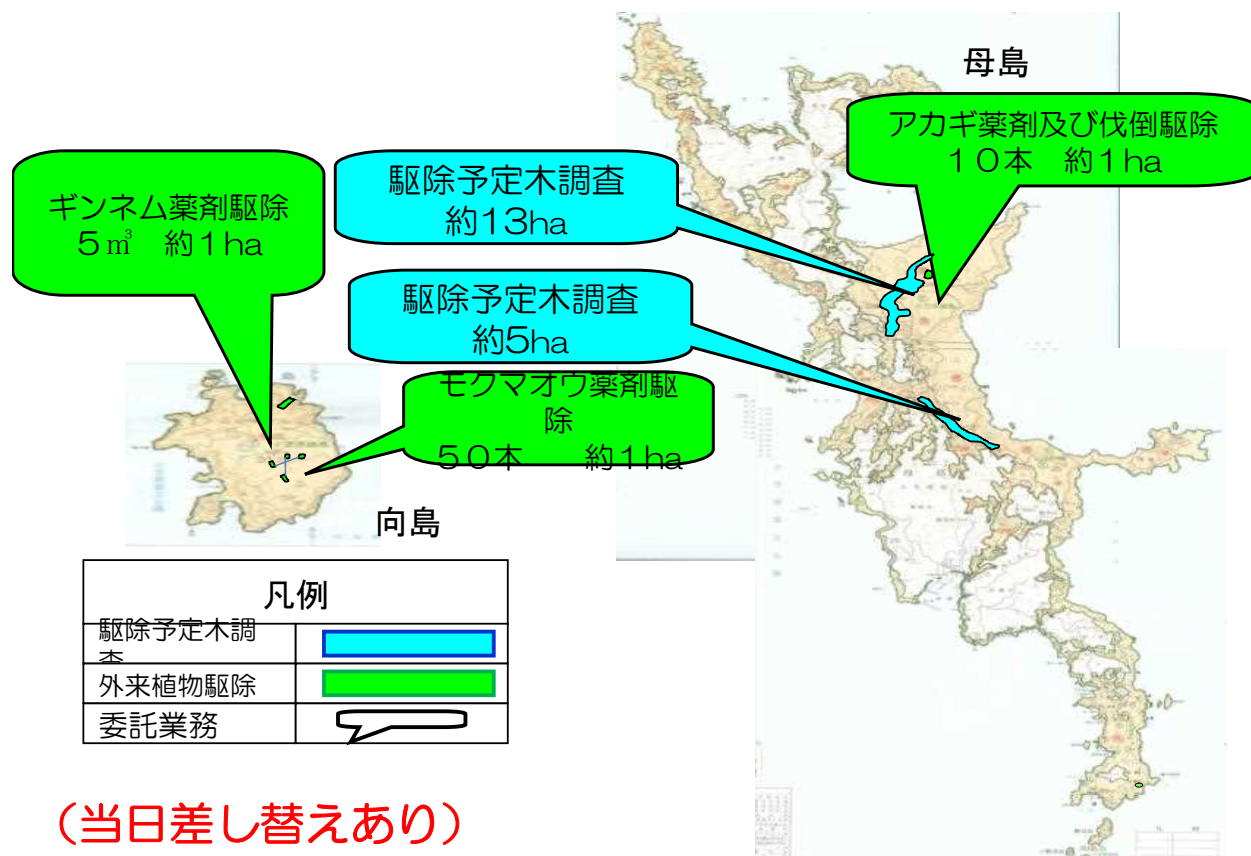
2ー⑥平成24年度 外来植物の駆除事業の実施状況（林野庁）

聟島・弟島・東島・西島



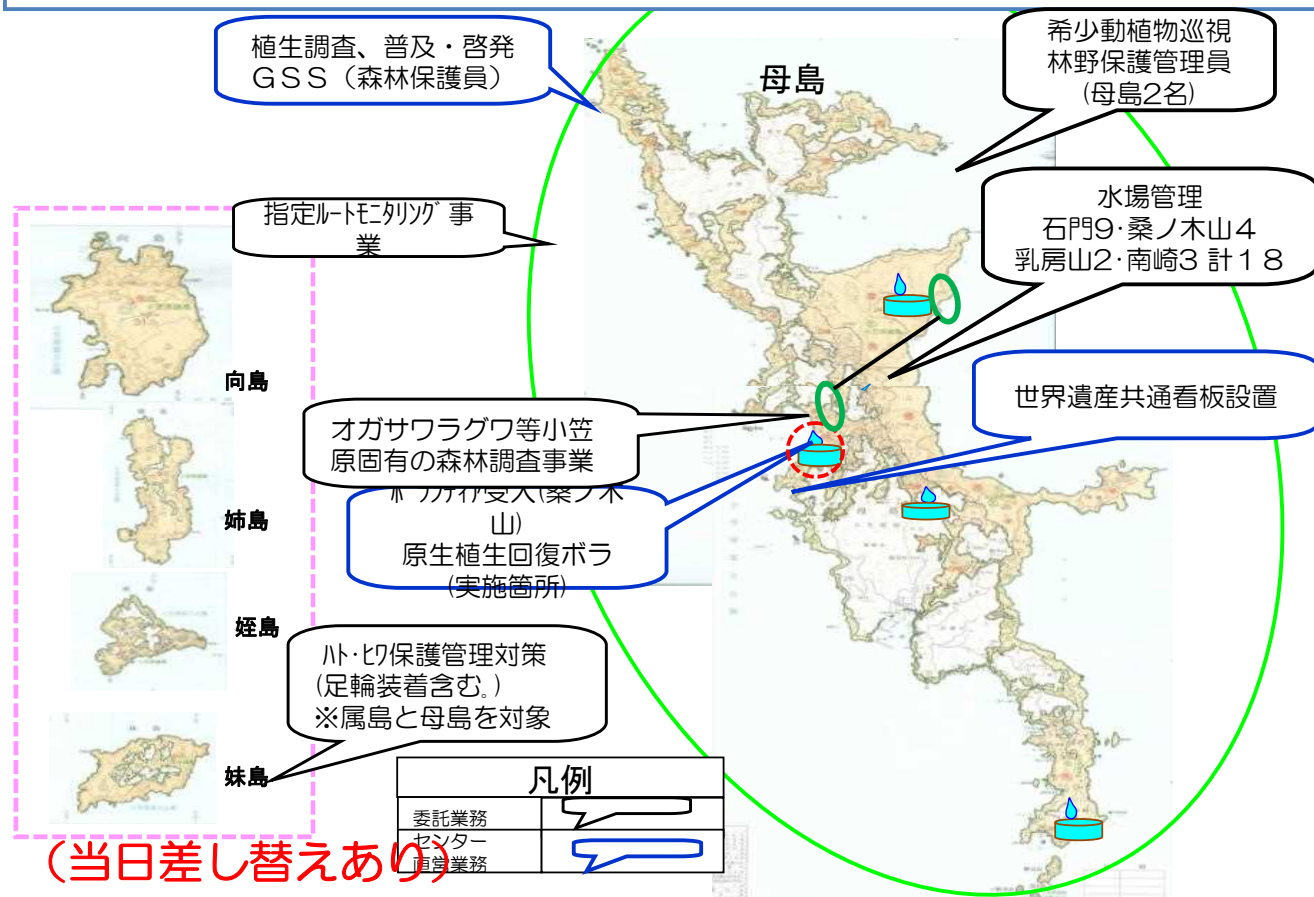
2ー⑥平成24年度 外来植物の駆除事業の実施状況（林野庁）

母島NO.1



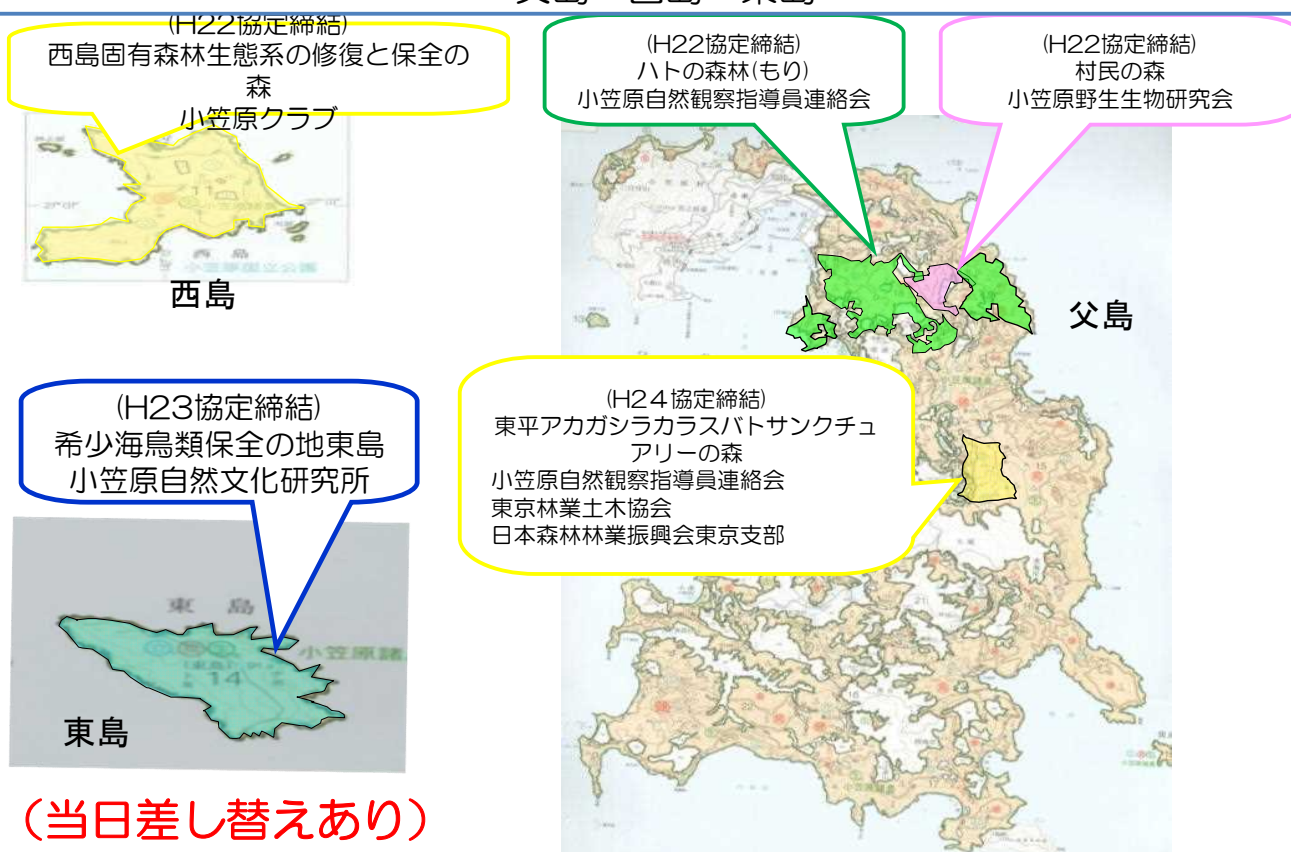
2-⑥平成24年度 外来植物の駆除事業の実施状況（林野庁）

母島NO.2



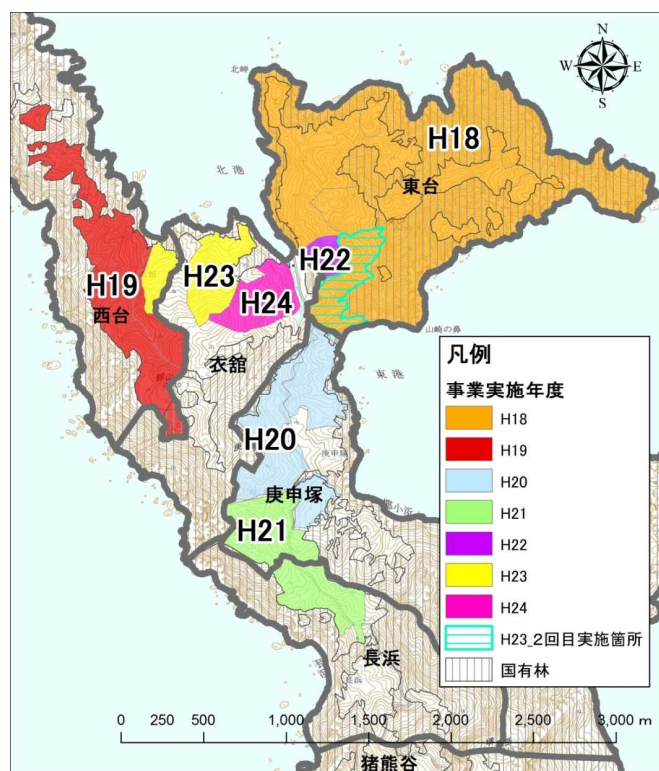
2-⑥平成24年度 外来植物の駆除事業の実施状況（林野庁）

【平成24年度 モデルプロジェクト活動地】 父島・西島・東島



2-⑥平成24年度 外来植物の駆除事業の実施状況（環境省）

母島（主に北部の民有地）



◆母島北部においては、所有者の承諾のとれた民有地を中心に、アカギの一次処理を行いました。

◆事業実施箇所環境によって、林相に大きな違いが生じています。

◆母樹の残木、稚樹・幼木の更新の状況に応じた、きめ細かなプログラムが必要であり、アカギの二次処理を行っています。

2-⑦ 外来生物普及啓発事業（各機関）

外来種啓発事業（小笠原村）

◆事業概要

平成13年度より主に南島での外来種駆除作業を村民ボランティア参加のもと行い、外来種の駆除作業を通して、小笠原諸島の特異な自然環境を劣化させず後世に残すため、保存・保護していくという意識啓発を行うと共に、参加する村民ボランティアの自然学習の場とする。

◆3カ年の実績

実施年度	実施日	参加人数
平成22年度	H22.9.15	22名
平成23年度	実績なし	—
平成24年度	H24.7.14	30名

◆駆除作業の様子



各種パンフレットの作成（各機関）

2ー⑧オガサワラオオコウモリ農作物被害防除対策事業 (小笠原村)

○目的

本種に対する安全な防除策提示及び普及事業により本種の防鳥ネット絡まり事故を防止し農作物の保護を推進する。

○平成20年度～平成22年度

本種にとって安全な防除方策の実証試験

硬質樹脂製ネット使用の防除器具及び施設の提示

○平成23年度

硬質樹脂製ネット使用のモデル施設の設置

本種への安全性、農作物の被害防除効果、施設の耐久性の確認

○平成24年度

硬質樹脂製ネット使用の防除器具及び施設の設置希望者（家庭菜園者を含む栽培者）に対して、設置に要する資材を無償貸与

防除施設資材貸与3件実施見込中、1件実施 防除器具資材貸与2件実施

（平成25年2月28日現在）

施設外観



文化庁及び東京都補助事業